

臺北飛行場開場式

國際的航空の港として將來對南支南洋航空路の基點となるべく、また軍事的には帝國南方の生命線の空の護りの據點となるべき重大なる使命を持つ松山の臺北飛行場は目出度くその第一期工事を完成し、愈々三月三十日午前十時修祓式を行ひ、同十一時より官民五百餘名を招待して、格納庫内に特設をされた式場に於て華々しく開場式を舉行した。

開場式の閉式辭の終る頃、午前十一時五十分、臺北飛行場爆撃の任務を持つ輕爆撃機は、戦闘機三機掩護の下に編隊空爆を行はんと、飛行場上空に現はれると、防空飛行隊戦闘機六機は、早くも編隊離陸の後、敵爆撃機編隊群をめさして突入し華々しい空中戦を展開した。演習終了後の高等飛行は實に入神の技を見せて、唯胸を寒からしめた。

この日部内は總動員で、會場の受付、接待、模擬店掛、交通掛と各手配され、午前十時頃より、三三五々と見える招待客の受付に、祝宴の接待に、瞬間大忙であつた。

五百餘の招待客、場外に圍繞する一般の觀客は飛行演習が始まるや、大空を打ち仰いで恍惚と、壯絶な大觀に見られて、なんとも云へぬ心強さに感謝の念が沸いた。そしてわが臺灣に取つて一大紀念すべき臺北飛行場開場式は、演習から舉式萬端停りなく終りを告げた。

以下開場式次第と、鈴置技師の工事報告、堀田總長の式辭、中川總督の告辭、柳川軍司令官及河村臺日社長の祝辭を掲げる。

開場式次第

- 一、開式 辭 航空掛長 慶谷 隆夫
- 二、工事報告 交通局技師 鈴置 良一
- 三、式 辭 交通局總長 堀田 鼎
- 四、告 辭 臺灣總督 中川 健藏
- 五、祝 辭 臺灣軍司令官 柳川 平助
- 同 臺灣日々新報社々長 河村 徹
- 六、挨拶 航空掛長 慶谷 隆夫
- 七、閉式 辭

工事報告

臺灣總督府交通局技師

鈴置 良一

本日臺北飛行場開場式を舉行せらるゝに當り、整地並に建築工事其他關係建設物に就き、工事報告をなさんとす。

臺北飛行場整地工事

本工事は昭和九、十の兩年度に互り施行せるものにして、

場内の排水竝に地表面の工作を施し、以て滑走路第一號線東西約九〇〇米、第二號線南北七〇〇米を完成せるものなり。

一、排水敷地内を東西に十區畫と爲し、鐵筋混凝土管徑一尺、及一尺五寸を以て南北に暗渠を築造し、排水は之を集めて基隆河に放流せしむ、此暗渠延長五千六百米を有す「マンホール」は、三十米毎に之を設け、其總數百十三箇とす。尙暗渠相互間に稍高く混凝土工を施し、其延長三千六百二十米を有す。

一、地表面の工作、滑走に使用せらるゝ主要部分に對し、在來粘土上に砂利を撒布し、其厚さを平均二寸とし、「ローラー」を以て輾壓す。更に厚さ一寸通り眞土を被覆し、再び輾壓を爲し充分なる表裝工事をなせり。

一、工事費及工事期間、工事費は兩年度に互り二十一萬圓、起工昭和九年二月二日、竣功昭和十一年三月十五日、

一、工事請負人 協心商會とす。

飛行場專用道路工事

本工事は臺北基隆間縱貫道路中崙地内を起點とし、飛行

揚座門に建する道路築造を爲すものにして、此延長千六百八十米を有し、有效幅十三米内十二米を砂利敷と爲し、左右地形に應じ側溝を設く。

一、工事費及工時期間

工事費は五萬八千五百圓にして、起工昭和十年六月十五日、竣功同年九月三十日とす。

一、設計並に監督は前同斷にして工事請負人は古賀達朗とす。

臺北飛行場事務所新築工事

(此内に臺北觀測所松山出張所を包含す)

一、建築面積 二階建にして延面積三百二十九米六二に「テレス」五十七平方米六四を有す。

一、各室配置

一階、車寄、廣間、事務室、場長室、應接室、會議室、觀測所事務室、同測風氣球室、同宿直室其他數室あり。

二階、展覽室觀測機械室とす

一、構造 鐵筋「コンクリート」補強煉瓦造にして、屋根

鐵筋「コンクリート」陸屋根造一部鐵筋小屋組「セメント」瓦葺とす。

一、様式 近世式

一、内外装 外装は「タイリングコート」吹付及人造洗滌仕上とす。

内装は種類多く煩瑣となるを以て説明省略す。

一、工事費建築費一萬八千圓、附帶設備費二千三十圓なり。

一、工事期間 起工昭和十年十一月八日にして竣功同一年三月二十五日とす。

一、設計並に監督は交通局通信部臨時建築係、建築工事請負人光智商會とす。

日本航空輸送株式會社臺北支所新築工事

(此内に臺北郵便局飛行場出張所を包含す)

一、建築面積 平家建にして延面積四百八十九平方米五外に「テレス」八十九平方米六九を有す。

一、各室配置 車寄、廣間(此一部に検査場及公衆電話室を有す)郵便局事務室、旅客待合室(此一部に賣店を設くる豫定なり)

食堂、事務室、支所長官、應接室、會議室、乗務員室、宿直室、其他數室あり。

一、構造 煉瓦造にして屋根鐵骨小屋組「セメント」瓦葺とす。

一、工事費 建築費二萬四千五百圓、附帯設備費二千九百六十圓とす。其他總て臺北飛行場事務所に同じ。

既設建築物其他

一、臺灣軍愛國格納庫 鐵骨造一棟、此建築面積九百九十二平方米八、

一、日本航空輸送株式會社格納庫鐵骨造一棟、此建築面

積一千六百九十二平方米

一、同會社貯油庫一棟及器材庫一棟

其他建築物として信號塔、羅針盤修正室、飛行機計量室等あり。

右の内愛國格納庫は特に臺灣軍より貸與を受け、尙飛行場の施設として光彩を添ふるものなり。是を以て見るに尙飛行場は其設備一應完備せるものにして、今後充分の能力を發揮し得るものと思惟せらる。以上を以て工事報告とす。

式 辭

交通部總長 堀 田 鼎

本日茲に臺北飛行場開場の式典を舉行するに方り、總督閣下軍司令官閣下を始め、官民諸賢の御費臨を忝ふしたるは我交通部の洵に光榮とする處なり。

惟ふに輓近航空機の急速なる發達は經濟的、文化的、乃至は國防見地より意義極めて深甚なるものと同時に、烈強相競ふて其の及ばざらむこと恐るゝ所以を思はすむばあらた、特に南方國防の第一線に在る吾臺灣官民が齊しく奮闘航空事